

シラバス

授業科目名	年度	学期	開講曜日・時限	学部・研究科など	担当教員	配当年次	単位数
社会情報学演習（1） （6）	2020	通年	木2	文学部・社会学専攻、 社会情報学専攻（情報コミュニケーションコース）、 社会情報学専攻（図書館情報学コース）	松田 美佐	3年次配当	4

履修条件・関連科目等

授業で使用する言語

授業で使用する言語（その他の言語名）

授業の概要

<ゼミ内容>

スマホやインターネットなどの普及により、私たちの日常生活や人間関係が変容し、社会が大きく変化したと言われています。「スマホが子どもをダメにする」「ネットの匿名性が無責任な発言を生む」といった話は、ばつと聞く限りは面白く、納得してしまうものも少なくありません。しかし、よく考えてみると何かおかしい、矛盾している...ということはないでしょうか。

本ゼミは、現代社会のありかたをメディアやコミュニケーションを軸に探ることを目的としています。あたり前だと感じる現代社会のありかたに疑問を持ち、その仕組みを一緒に学問的に考えていきましょう。社会情報学や社会学を専攻するみなさんだからこそ、買ってきたメディアを使うだけのユーザーではなく、自分なりにメディアをとらえ、メディアの存在が前提となっている現代社会を泳げる人になってほしいと思っています。

<活動予定>

まずは、メディアやコミュニケーションに関する「あたり前」をみんなで問い直したいと思います。もちろん、ただ問い直すだけでなく、どうすれば問い直しができるか、その方法を考えることも重要です。

その後は、メディアやコミュニケーションと現代社会に関する文献講読と各人の論文執筆に向けた研究報告（4年は卒業論文・卒業研究論文、3年はゼミ論）の二本立てで進めていきます。夏合宿をおこなう予定であるほか、3.4年とも個人面談をゼミ時間外におこないます。学年末には、三年生はゼミ論（10,000字以上）執筆、四年生は卒業論文(卒業研究論文)の要約をゼミ論集として刊行します。

なお、四年次での卒業論文執筆を強く推奨します。卒業論文を執筆しない学生は卒業研究論文（20,000字以上）の執筆を求めます。

科目目的

前期は文献講読および基本的研究法（文献の集め方や引用・参照のルールなど）の再確認をおこない、論文執筆に必要な基本スキルの確実な定着を図ります。後期は前期に身につけたスキルを実地に応用し、3年生はゼミ論文、4年生は卒業論文を完成させます。

到達目標

授業計画と内容

<前期>

1. イントロダクション
2. 論文の書き方
3. 卒論発表1回目：目次（章立て）
4. 卒論発表2回目：目次（節立て）
5. 卒論発表3回目：各章の構成
6. メディアやコミュニケーション関連の「常識」を見つける
7. 卒論発表4回目：序論
8. 文献講読『現代文化への社会学』：1～3章
9. 文献講読『現代文化への社会学』：4～6章
10. 文献講読『現代文化への社会学』：7～9章
11. 文献講読『現代文化への社会学』：10～12章
12. メディアやコミュニケーション関連の「常識」を問い直す方法をさぐる
13. メディアやコミュニケーション関連の「常識」を批判する
14. 総括・まとめ：夏合宿にむけて

<後期>

1. イントロダクション
2. 卒論発表5回目：1章
3. 卒論発表6回目：2章
4. 卒論発表7回目：3章
5. 卒論発表8回目：終章
6. 3年生研究テーマ発表1回目：目次
7. 3年生研究テーマ発表2回目：各章の構成
8. 3年生研究テーマ発表3回目：序章
9. 卒論面談
10. 卒研面談
11. 3年生卒論発表：本論
12. 3年生卒論発表：結論
13. 4年卒研発表
14. 総括・まとめ

授業時間外の学修の内容**授業時間外の学修の内容（その他の内容等）**

文献講読の回は、担当者以外も精読して臨むこと。
 授業時間外に個人面談を複数回受け、それぞれ自主的に研究を進めること。
 このため、授業ごとの学習時間の提示は適切ではないが、毎週4～5時間以上は必要である。

授業時間外の学修に必要な時間数/週**成績評価の方法・基準****成績評価の方法・基準（備考）**

（1）出席と毎回の取り組み（ゼミ合宿への出席も含む）（30%）、（2）議論への参加度（20%）、（3）発表・提出資料（論文を含む）（50%）、に基づき評価します。
 なお、以下の場合にはE判定とします。
 1. 三分の一以上欠席した場合
 2. 報告担当日に無断で欠席した場合
 3. 卒業研究論文（卒業論文執筆者は卒業論文での代替を認める）もしくはゼミ論文を期日までに提出しなかった場合
 4. 卒業研究論文やゼミ論文に剽窃が認められた場合
 詳細は初回の授業で説明します。

課題や試験のフィードバック方法**課題や試験のフィードバック方法（その他の内容等）****アクティブ・ラーニングの実施内容****アクティブ・ラーニングの実施内容（その他の内容等）****授業におけるICTの活用方法****授業におけるICTの活用方法（その他の内容等）****実務経験のある教員による授業****【実務経験有の場合】実務経験の内容****【実務経験有の場合】実務経験に関連する授業内容****テキスト・参考文献等**

<テキスト予定>
 高野光平・加島卓・飯田豊編著『現代文化への社会学』北樹出版 2018年

詳細は授業開始時に指示しますので、その後に購入してください。

<ゼミ論・卒論執筆の参考文献>
 河野哲也,2003,『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶應義塾大学出版会
 渡辺潤・宮入恭平編著,2013,『「文化系」学生のレポート・卒論術』青弓社

その他特記事項**参考URL**

ゼミの進め方など、続きは <http://sil.tamacc.chuo-u.ac.jp/wp/dailylife/seminar#matsuda> で。

コメント1**コメント2**

Webexによる双方向型授業を基本とします。卒論指導も同様です。
 テキストは後日指示しますので、購入しなくてかまいません。
 初回に説明をしますので、必ず出席してください。当日のトラブルはゼミのLINEグループで対応します。

コメント3**コメント4**